

次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト 中間評価の実施について

次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト評価会では、事業開始1～3年目、5、6、8、9年目に本プロジェクトの取組の進捗を確認するフォローアップを行う。また、本プロジェクトの火山研究推進事業の各課題、人材育成コンソーシアム構築事業ならびに2事業間の連携について、事業実施4年目、7年目には中間評価を行い、事業終了年度には事後評価を行う。中間評価の結果を受けて、各課題に実施状況の改善等を求めることがある。

令和元年度は事業実施4年目にあたることから、以下のとおり中間評価を行う予定。

1. スケジュール

評価会日時：令和元年7月8日（月）～9日（火）

2. 中間評価の概要

- ・火山研究推進事業の各課題及び人材育成コンソーシアム構築事業において、サブテーマ単位で「実施概要・成果説明資料」を作成。
 - 課題の概要、実施体制
 - 経費等
 - 4年目の達成目標及びこれに対する達成状況
 - 成果（科学的・技術的成果及び知見【研究事業】／育成システム・プログラム構築の成果【人材育成】／社会的成果）
 - 今後の見通し、本課題で得られた成果の活用・展望
 - 成果の詳細
 - 自己評価
- ・作成された「実施概要・成果説明資料」及び評価会におけるプレゼン・質疑応答を踏まえて、サブテーマ単位で各課題の評価を実施。
- ・評価は「評価項目及び評価の視点」に沿って行う。（別紙参照）

3. その他

次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト評価会による上記の評価結果も踏まえて、令和元年7月末（予定）に、科学技術・学術審議会 研究開発・評価分科会 防災科学技術委員会による次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトの中間評価が実施される予定。

(別紙) 評価項目及び評価の視点 (案)

●次世代火山研究推進事業 各課題 (サブテーマ)

評価項目		評価の視点		
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である	—		
I. 目標達成度	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	目標達成度	○	課題実施計画の進捗度・達成度はどの程度か (所期の計画/採択コメントにて修正が求められた課題では採択コメントを反映した計画を基準とする)
			○	客観的な情勢の変化があった場合には、所期の計画の適切な見直しなど機動的に対応できているか
II. 成果	s. 優れている a. 妥当である b. 妥当とは言えない c. 成果が得られていない	科学的・技術的価値	○	新しい科学技術面での知見、あるいは新たな技術開発成果があるか
			○	原著論文の発表など、研究成果の量・質および情報発信はどうか
			○	研究成果は関連分野への科学的・技術的波及効果が期待できるものか
		社会的価値	○	研究成果の社会的な効果 (公益性、実用性、インパクト等) はどうか
			○	火山災害の防災対応・防災対策に資する成果の獲得に向けた工夫・努力はどうか
			○	人材育成への貢献が図られているか
III. 計画・手法の妥当性	s. 優れている a. 妥当である b. やや不適切である c. 総じて不適切である	計画・手法の妥当性	○	課題実施のためのプロジェクトマネジメントは適切であるか
			○	必要に応じて、プロジェクト管理のための会議や、研究成果発表・確認のための研究会議等、研究者が直接対話する機会を設け、適切なコミュニケーションが図られているか
			○	研究目的・内容にかんがみて、予算の使われ方は適切であるか
IV. 今後の取組の妥当性・発展性	s. 高いレベルでの発展性の確保が期待できる a. 発展性の確保が期待できる b. 発展性確保がやや期待できない c. 発展性確保が全く期待できない	継続性・発展性	○	取組みの発展に向けて適切な実施計画となっているか
			○	取組みの発展に向けた実施体制等の工夫はどうか
			○	実施期間終了後の展開ビジョンはどうか

●人材育成コンソーシアム構築事業

評価項目		評価の視点		
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である	—		
I. 目標達成度	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	目標達成度	○	課題実施計画の進捗度・達成度はどの程度か（所期の計画/採択コメントにて修正が求められた課題では採択コメントを反映した計画を基準とする）
			○	客観的な情勢の変化があった場合には、所期の計画の適切な見直しなど機動的に対応できているか
II. 成果	s. 優れている a. 妥当である b. 妥当とは言えない c. 成果が得られていない	育成システム（実施体制等）の有効性	○	火山人材の育成に有効な事務局体制が構築されたか
			○	火山人材の育成に有効な連携実施体制が構築されたか
			○	火山人材の育成に有効な履修生選考及び修了認定に向けた仕組みが適切に構築されているか
		育成プログラムの有効性	○	火山人材の育成に有効なカリキュラムが策定され、実施されているか
			○	社会で活躍する火山人材の育成が図られているか
			○	社会的な効果・波及効果等（公益性、実用性、インパクト等）はどうか
			○	研究プロジェクトとの連携はどうか
III. 計画・手法の妥当性	s. 優れている a. 妥当である b. やや不適切である c. 総じて不適切である	計画・手法の妥当性	○	人材育成推進・実施のためのプロジェクトマネジメントは適切であるか
			○	人材育成目的・内容にかんがみて、予算の使われ方は適切であるか
IV. 今後の取組の発展性	s. 高いレベルでの発展性の確保が期待できる a. 発展性の確保が期待できる b. 発展性確保がやや期待できない c. 発展性確保が全く期待できない	発展性	○	取組みの展開・発展に向けて、適切な実施計画となっているか
			○	取組みの展開・発展に向けた実施体制等の工夫はどうか
			○	実施期間終了後の展開ビジョンはどうか